



昨年、139団体・2万6千人が参加して福島県で開催された食育推進全国大会。ガーナの研修員たちは、栄養バランスの良い献立を学ぶためのゲームに挑戦した

「マルチセクターの捉え方としては、保健、教育、農業といった分野を超えた連携と、官民連携の2つがあります。ガーナ政府にマルチセクターの取り組みを推進する組織が設立されたことは大きな進展ですが、S U Nに加盟してからの3年間、新しい栄養改善活動は停滞していました。JICA国際協力専門員の萩原明子さんは、こう指摘する。活動を活性化させるために何ができるのか——萩原さんは日本の栄養チームは検討を始めた。

JICAは10年以上前から母子栄養改善の集団研修を行っており、ガーナをはじめ、ベナンやケニアなどアフリカの国々から多くの人を受け入れてきた。萩原さんは14年にまずこの研修を見直し、分野間連携や官民連携に焦点を当てた講義や演習を充実させた。また、ガーナ1カ国を対象にした国別研修も同じ年に立ち上げた。この国別研修の特徴は、栄養士だけでなく、教育省や農業省など幅広い分野の関係者が栄養改善について学ぶ点だ。中でも、財務省からも参加者を招くことになったのは画期的だと萩原さんは話す。「これまでの集団研修で参加者からよく聞かれていた意見に、母国では政府に予算を付けてもらえないので、JICAや他の援助機関からの支援が必要だという話がありました。もちろん支援がなければ難しいこともありませんが、取り組みの持続性を高めるために重要なのは、自国の予算で回していける仕組みです。今回、財務省を研修に巻き込むことができたのは、財源としてガーナ国内の予算を念頭に置いているという点で大きな意味を持ちます」

日本では、食育の素晴らしを伝えることです。日本の食育は、内閣府、厚生労働省、農林水産省、文部科学省などさまざまな省庁が関わり、さらに国と地方自治体、民間とが一体となって行われているので、マルチセクターの取り組みを学ぶ上で非常に参考になると思います」と話す。

その一環として、研修員は年に1度開催される「食育推進全国大会」に参加する。日本全国の食品関連の企業や団体、大学、自治体などがブースを出展し、それぞれの食育の取り組みや、栄養を考えた商品やメニューを紹介するこの大会は、毎年大勢の人たちでにぎ

鍵は「マルチセクター」  
新たな研修が始まる

3人に1人。昨年の「世界栄養報告(Global Nutrition Report)」は、世界全体で栄養不良の影響を直接的に受けている人数を、冒頭の要約でこう明記した。とりわけ、サハラ砂漠以南のサブサハラ・アフリカ地域では、慢性的な栄養不足に苦しむ人は2億人以上にのぼるといわれている。

世界栄養報告にはこうも書かれている。今日の国際社会が直面している問題で、これほど規模の大

きなものはない。実際、栄養改善は国際的な課題として注目が高まっている。2010年には、政府、市民社会、国連などが参画し、開発途上国の栄養改善にマルチセクターで取り組むプラットフォーム「Scaling Up Nutrition(SUN)」が立ち上がり、アフリカの国々でも、政府を中心にSUNに加盟するための基盤づくりが進められた。このうち、ガーナでは、政府が栄養改善の「マルチセクター調整プラットフォーム」を設立し、11年にSUNへの加盟を果たした。



ランブシエ郡の栄養に関わるさまざまな部署の関係者が集まって行われたミーティング

from ガーナ

Ghana

## アフリカの “栄養改善モデル”を目指す

栄養不足による子どもの発育への影響が深刻なガーナ。日本は、研修や民間企業の事業などを通じて、ガーナの栄養改善に取り組んできた。今、大きな課題となっているのが、さまざまな分野における行政機関の間での連携、それに政府や民間企業を横断した取り組みを推進するためのコーディネーション能力の向上だ。

アッパーウエスト州ランブシエ郡で、母親たちを集めて栄養教育を行うコミュニティボランティア。手にしているのは、プロジェクトで作成した紙芝居式の教材だ





栄養効果試験の様子。KOKO Plusの効果を検証するため採血を行って調査した

味の素株式会社がガーナ大学などと共同で開発した栄養サプリメント「KOKO Plus」

00人以上に対して、教材の活用方法などを伝える研修を行いました」と渡辺さん。定期検診や、保健所の職員が家庭訪問をする際などに教材を活用し、母親やその家族に対して栄養指導を行っている。「母子保健と栄養対策は、食生活や育児など人々の慣習が大きく関わっています。そのため、母親への栄養教育だけでなく、家族やコミュニティの理解も必要なのです」と渡辺さんは話す。

同州保健局・栄養部コーディネーターのクラ・アンソニー・ンミンクマさんは、「栄養改善のターゲットは子どもですが、子どもたち自身が意思決定をするわけではないので、学校の先生や親などに働き掛けています。学校でしっかりと食べさせてもらっているかなどを考える親が、次第に増えてきています」とこれまでの成果を実感している。

### 日本の知見を結集 取り組みの拡大を目指す

今後の課題について萩原さんは、「体重と身長を測定し、栄養不良

の子どもの早期に見つけ出そうという試みは、既に始まっています。ただ、栄養不良と分かっても、その後の母親に対する栄養教育はまだ十分とはいえません」と話す。この課題の解決策として期待されているのが、新しく開発が進んでいる「母子手帳」だ。現在使われている妊産婦への「妊婦手帳」と、出産後の「子ども手帳」を一本化するこの母子手帳には、子ども手帳が渡されるまでの間に新生児が死亡するケースを減らす目的に加え、もう1つ重要な目的がある」と萩原さんは話す。「新しい母子手帳には、穀類、豆類、肉類、野菜をバランス良く取る『フォースターダイエット』や、手洗いのやり方など、栄養や衛生に関するさまざまな情報を盛り込む予定です。そうすることで、子どもを持つ全ての家庭に、栄養の大切さについて知ってもらうことができます」

来年1月からの配布を目指すこの母子手帳プロジェクトとの連携を模索しているのが、味の素株式会社だ。「私たちがガーナ大学などと共同開発した栄養サプリメント『KOKO Plus』の情報を母子手帳に載せることで、より効果的な活用につながるのではと考えています」。こう話すのは、同社研究開発企画部の取出恭彦さんだ。同社は09年、栄養問題の解決をソーシャルビジネスで実現することを目指して、離乳食に加えるだけで不足しがちな栄養素を補えるKOKO Plusの開発に乗り出した。現地の約900人の子どもの対象に実施した栄養効果試験では、ビタミンやミネラルといった微量栄養素だけの摂取に比べて、タンパク質やアミノ酸も組み合わせたKOKO Plusを摂取する方が、低身長や貧血の予防により有効だと証明された。

現在は流通ネットワークをつくるため、国際NGOや現地の企業と連携しながら、母親を対象にした販売試験を行っている。「多くの方が商品を1度は購入してくれませんが、栄養の効果を実感するのには時間がかかるため、短期間で使うのをやめてしまいます。そこで重要になるのが、継続的な栄養教育なのです」と取出さん。今後は現地の企業を中心とした持続可能な生産・販売体制の確立を目指すとともに、母親への教育や啓発活動にも一層力を入れる方針だ。

今年、新たに北部3州で始まる地域保健プロジェクトでは、アッパウエスト州での取り組みの成果を、さらに広域に普及させる計画だ。保健、農業、教育——さまざまな分野の知見を結集し、官民連携によって前進する取り組みが、栄養問題を抱えるアフリカの国々にとって一つの道しるべとなることが期待されている。



ランブシエ郡のプロジェクトでは、栄養改善のためのメッセージや、実際に活動に取り組む母親の声などを記録した動画を上映する「ナイトビデオショー」が人気だ



子どもの成長モニタリングでは、体重だけでなく身長も測定されるように

わう。参加した研修員は、一般市民をはじめとする全ての人が食育に関われる仕組みを作ることの大切さを実感していたという。

また、研修の中で、学校給食の現場を見学する機会も用意されている。日本の給食は、農家や漁業関係者が実際に学校に来て、食材に使われている野菜や魚に関する話をしたり、栄養教諭や担任が栄養素や食文化、マナーについて教えたりのなど、食を通じた体験型学習の場として捉えられている。一方のガーナでは、給食は「食物を与える」という意味の『フイーディング』という言葉を使い、『スクールフイーディング』と呼ばれている。つまり、空腹を満たすことに焦点が当てられているのだ。「研修員からはスクールフイーディングではなく、スクールランチプログラムとして栄養教育を導入したいという声も聞かれました。日本の食育をガーナの新聞で紹介したり、イベントの開催を目指したりする研修員もいて、今後の展開に期待が高まります」と萩原さんは話す。

### いよいよ実践的な活動へ まずは州レベルから

ガーナ北部のアッパウエスト州。国内でもとりわけ貧困率が高いこの地域では、昨年3月から、マルチセクターによる取り組みの効果を実証するためのプロジェクト

トが進められている。そのきっかけとなったのが、15年に行われた国別研修だった。「研修にアッパウエスト州の保健局長や行政担当者が参加し、その経験をもとに、州レベルでの栄養改善の活動計画を立てました。その計画に基づいて行われることになったのが、今回のプロジェクトです」とJICA専門家の渡辺銅市郎さんは説明する。まずは州レベルでの分野間連携を図り、その経験を教訓にして、より垣根の高い中央政府における関係省庁や関連機関のコーディネーション能力の強化につなげることが狙いに含まれている。

プロジェクトでは、同州のランブシエ郡を対象地として、大きく分けて2つの取り組みが行われている。1つ目が、出生後の子どもの身長や体重を定期的に測る成長モニタリングだ。ガーナでは、栄養不良による低身長の子どもの多いにもかかわらず、定期検診の際に身長の測定は行われていなかった。そこで、同郡の全ての保健所に身長計を提供し、職員に対して測定方法の訓練を行った。

もう1つの取り組みが、栄養教育活動だ。「住民への啓発活動を行うため、イラストを多用した紙芝居式の栄養教材を作成しました。その後、保健所の職員や農業普及員の他、コミュニティから選ばれたボランティアスタッフ2



開発中の母子手帳のテスト版を母親に配り、使いやすさなどについて意見を聞く萩原さん